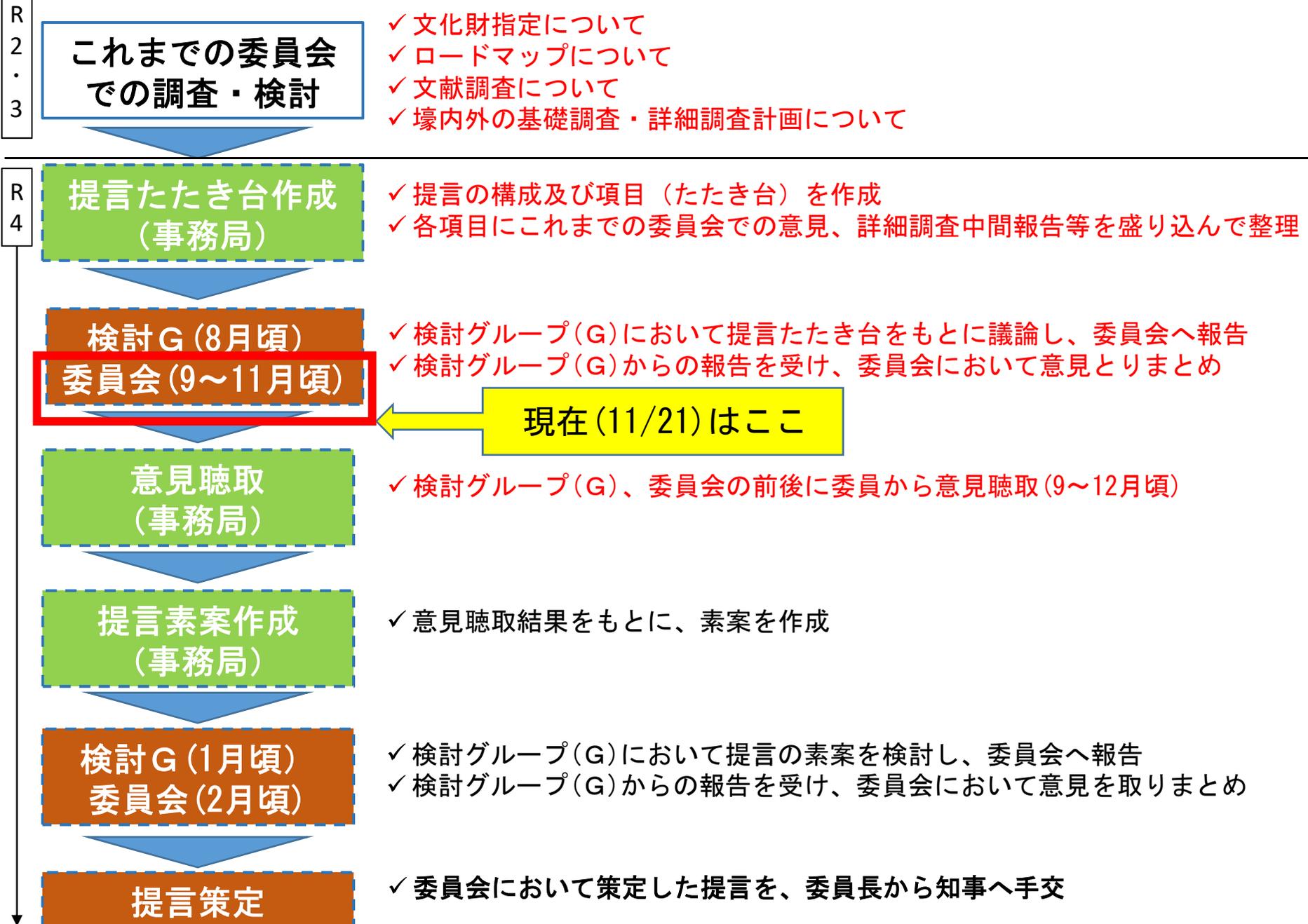


## 令和 4 年度 of 取組に係る進捗状況等

- 1 令和 4 年度スケジュール（案） . . . . . P. 1
- 2 提言策定に係る作業イメージ（案） . . . . . P. 2
- 3 各検討グループ会合の開催状況 . . . . . P. 3
- 4 詳細調査中間報告 . . . . . P. 8



# 提言策定に係る作業イメージ(案)



# 各検討グループ会合の開催状況について

## 平和発信・継承検討グループ

開催日：9月12日（月）

### 1 報告事項

- (1)令和4年度 of 取組等について
- (2)意見交換・質疑応答

### 2 議事事項

- (1)保存・公開に向けた提言の策定について
- (2)意見交換・質疑応答

### 3 主な委員意見

- (1)正しく継承するとは誰にとって正しいのか。主語を曖昧にせず正確に継承する必要がある
- (2)入壕して得られる感覚が重要なので、坑口だけでなく坑道までの活用を考えてほしい
- (3)証言については、例えば鉄血勤皇隊や師範学校生徒等、ポイントを絞って収集してほしい
- (4)展示については、ほかの資料館との関連ではなく、この現場で学べる展示施設が必要
- (5)地域住民に対して32軍壕の保存・公開の取組に係る行政からの説明会が必要
- (6)ガイド養成は、内容やコンセプト等の方向性を決めたいうえで、壕の公開に間に合わせたスケジュールにする必要がある
- (7)ウェブサイトの情報発信は『ターゲットを絞る』。つくった後に『伝える』『検証』することも大事

# 各検討グループ会合の開催状況について

## 技術検討グループ

開催日：9月20日（火）

### 1 報告事項

- (1)令和4年度の取組等について
- (2)意見交換・質疑応答

### 2 議事事項

- (1)保存・公開に向けた提言の策定について（意見交換・質疑応答）
- (2)保存・公開に向けた調査実施の優先度について（意見交換・質疑応答）

### 3 主な委員意見

#### (1)保存・公開に向けた提言の策定について

- ①壕の平和教育・学習への利活用については、平和教育だけでなく、自然環境、例えば地形、地質、地下水、石灰岩等に関する総合学習として活用できるのではないかと。また、記念資料館について検討する必要があると、場所や規模、セミナーの開催等を踏まえて考えなければならない。
- ②当面の実施すべき目標を達成した後も時間をかけて継続的に取り組んでいくことが重要であるため、第4章に「継続的」という文言を記載した方がよいのではないかと。
- ③壕の全体像をどうやって把握するのかなどについても提言に明確にしておいた方がよいのではないかと。

#### (2)保存・公開に向けた調査実施の優先度について【別添資料参照】

- ①優先度を設定するにあたっては、いつ時点の優先度なのか日付を明記した方がよい。
- ②優先する調査と並行して地質観察、地下水調査など基本的な調査は継続して行い、しっかりデータを取っておく必要がある。

# 保存・公開に向けた調査実施の優先度について

## 【前提条件】

- ◆ 戦後77年が経ち、戦争体験者の証言を直に聞くことが出来なくなることから、体験者の証言を収集・記録し、次世代へ正確に継承する最後のタイミングとして32軍壕の保存・公開は歴史的な取組として、進める必要がある。(P1・L16～18)
- ◆ 32軍壕の保存・公開を求める県民の声が高まる中で、沖縄県が実施した基礎調査や詳細調査等から現状のままを公開することは困難であり、32軍壕の公開にあたっては、何らかの対策を講じる必要がある。また、実現可能な公開に向けては、費用や財源の検討もあわせて行う必要がある。(P2・L3～5, L9)
- ◆ 戦争遺跡としての文化財指定の取組を進めながら、段階的な追加指定も検討していく必要がある。(P2・L16～17)
- ◆ 32軍壕の第1坑口及び第5坑口の保存・公開に向けた取組を優先的に進めながら、詳細調査の結果を踏まえ、安全性を確保しつつ段階的な壕の保存・公開に向け取り組むことが必要である。(P2・L25～27)
- ◆ 詳細調査の結果や関係機関との協議結果に基づき、段階的な整備・公開の方針を立てる必要がある。整備方針作成の際には、工法パターンとともに初期費用や維持費等の整備に要する財源もあわせて検討することが必要である。(P6・L10～13)

## 【議論していただきたい点】

- 前提条件を踏まえたうえで、時間・費用等を効果的に充てるため、以下の4つの視点を踏まえ、段階的に調査を進めることとしたい。

立地・周辺環境

安全性

発信効果

費用等

【別添】令和4年9月20日 技術検討グループ会合資料

保存・公開に向けた調査実施の優先度の設定について

区分		箇所・区間	立地・周辺環境	安全性	発信効果	費用
A	早期整備が求められる区間	第5坑口(優先事項)	県有地(取得予定)	坑口の形状を維持しており、崩落の危険が低い	出入口	・考古学的調査(文化財指定) ・土地の取得費用 ・公開にかかる整備費用
B	段階的に整備を検討する区間	第1坑口(優先事項)	県有地 県文化財指定区域	位置の特定に至っていないが、安全対策が容易で危険性が低い	出入口	・物理的調査(実施中) ・考古学的調査(文化財指定) ・公開にかかる整備費用
		第1坑道(スロープ部) (優先事項)	県有地 首里城城壁 県道49号線 国文化財指定区域	米軍未調査区間であり不確実性が高い	進入路	・物理的調査(実施中) ・考古学的調査(文化財指定) ・公開にかかる整備費用
		第1坑道(中心部) (優先事項)	国有地 県有地 首里城の城壁 首里城城郭内 木曳門 国文化財指定区域	米軍調査実施時入坑可	参謀室 作戦室 将校室 通信隊室 歩兵部隊室 第24師団司令部	・物理的調査(現状把握) ・考古学的調査(文化財指定) ・公開にかかる整備費用
		第2坑道	県有地 小学校用地 県道49号線 国文化財指定区域	調査員の入坑可 ・酸素欠乏あり ・坑壁崩落あり	副司令官室 作戦室 偵察隊 無線室 観測室	・物理的調査(実施中) ・考古学的調査(文化財指定) ・公開にかかる整備費用
		第3坑道	県有地 小学校用地 守礼門 国文化財指定区域	調査員の入坑可 ・酸素欠乏あり ・坑壁崩落あり	司令長官室 参謀室	・物理的調査(実施中) ・考古学的調査(文化財指定) ・公開にかかる整備費用
		第5坑道(階段部以外)	県有地(取得予定) 民有地 那覇市道	調査員の入坑可 ・酸素欠乏あり ・坑壁崩落あり	将校室 海軍基地隊司令長官室 女性達の部屋、台所	・物理的調査(実施中) ・考古学的調査(文化財指定) ・土地の取得費用 ・公開にかかる整備費用
C	整備・公開に際し課題が多い区間	第1坑道 (スロープ部・中心部以外)	国有地 県有地 民有地 首里城の城壁 首里城城郭内 国文化財指定区域(一部)	米軍調査実施時入坑可	将校室 情報班室 航空通信隊室 野楽隊室 医療将校室 救助室、薬局	・物理的調査(現状把握) ・考古学的調査(文化財指定) ・土地の権利取得費用 ・公開にかかる整備費用
		第5坑道(階段部)	民有地	米軍未調査区間であり不確実性が高い	特になし	・物理的調査(現状把握) ・考古学的調査(文化財指定) ・土地の権利取得費用 ・公開にかかる整備費用
		第4坑道	民有地	米軍未調査区間であり不確実性が高い	便所等	・物理的調査(現状把握) ・考古学的調査(文化財指定) ・土地の権利取得費用 ・公開にかかる整備費用



# 第6回会合資料

## — 詳細調査中間報告 —

令和4年 11月21日  
第32軍司令部壕保存・公開検討委員会

## 詳細調査結果

### 1. 調査目的及び調査実施内容

#### ■ 調査目的

地上から物理探査やボーリング調査等を実施し、第1坑道の位置の特定や内部の状況を把握するとともに、発掘済みの坑道を対象に地質状況や天井、壁面の状況を把握する。また、壕内の地下水を排除する必要がある場合に備えて、周辺地域の水源の分布を確認し、壕内部湛水の実態を把握する。

#### ■ 調査実施内容

- ①未発掘区間調査: 物理探査により第1坑道(第1坑口周辺)未発掘区間の位置及び内部状態を推定し、ボーリング調査により位置の特定ならびに内部状態の確認を試みる。
- ②坑道内地質観察: 発掘済みの坑道を対象として、坑道の安定性評価のために地質の構造、割れ目の開口・方向性、風化程度、変形状況等の基礎データを取得する。
- ③地下水等調査: 発掘済みの坑道を対象として、地下水排除対策検討のために壕内部の湛水・水没及び壕周辺地域の井戸の水位変動のタイミング、頻度を把握し、湛水・水没メカニズムを推定するための基礎データを取得する。

#### ■ 調査結果(概要)

- ①未発掘区間調査: 令和4年8月に実施した物理探査により、第1坑口周辺部において[第1坑道未発掘区間の存在を示すと考えられる『低速度領域』を検出](#)することができた。
- ②坑道内地質観察: 現地調査を完了し、調査結果のとりまとめ作業中。
- ③地下水等調査: 現地調査継続中。

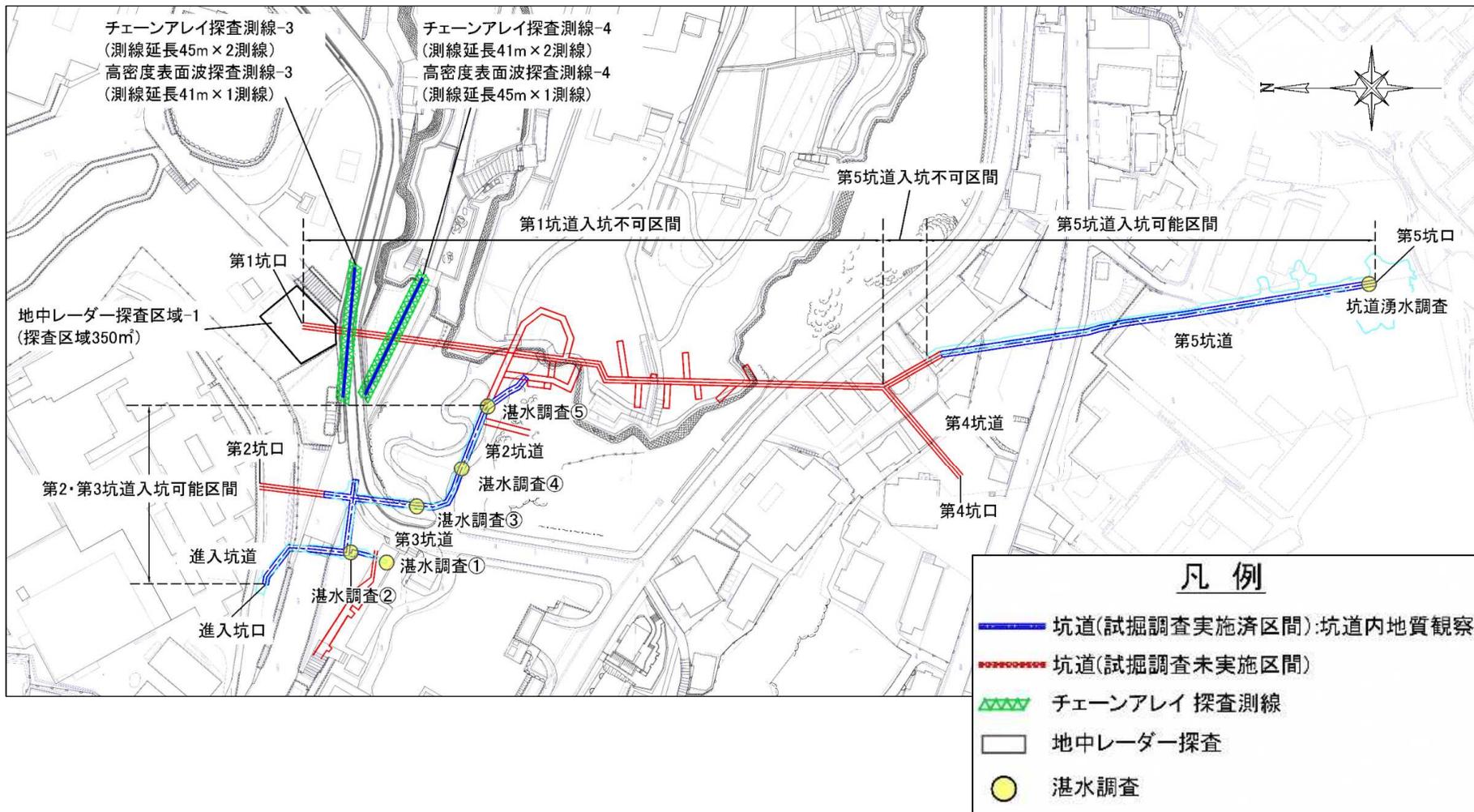
#### ■ 今後の調査予定

[ボーリング調査](#)を実施し、[第1坑道と推定される空洞が確認できた場合は、ボーリング調査孔よりカメラ等を挿入し、内部の状態を把握](#)する。

#### ■ 調査の目標

第1坑道(第1坑口周辺)の2箇所を対象に実施する物理探査及びボーリング調査により、[第1坑道\(スロープ部\)区間の位置を推定](#)するとともに、[第1坑口の位置を絞り込む](#)。

# 調査位置平面図



# 未発掘区間調査 実施状況

調査手法	測線・区域番号	計画数量	調査対象位置	調査目的	調査結果
地中レーダー探査	区域-1	探査区域350m <sup>2</sup>	第1坑口	第1坑口の検出	検出できず(探査深度よりも坑口が深い可能性がある)
チェーンアレイ探査	測線-3	測線延長41m×2測線	第1坑道	第1坑道の検出	第1坑道と推定される『低速度領域』を検出した
〃	測線-4	〃	〃	〃	第1坑道と推定される『低速度領域』を検出した(やや不明瞭)
高密度表面波探査	測線-3	測線延長45m×1測線	〃	〃	第1坑道と推定される『低速度領域』を検出した
〃	測線-4	〃	〃	〃	第1坑道と推定される『低速度領域』を検出した
ボーリング調査	測線-3, 4	4~8箇所	〃	第1坑道の検出	調査中



# 参考図：第32軍司令部周辺の地質平面図及び地質断面模式図

【第6回会合 報告事項】  
第1坑道(第1坑口周辺)未発掘区間の位置の推定

